

令和 5 年 4 月 25 日現在

機関番号：37129

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2022

課題番号：17K12149

研究課題名（和文）学士課程における口腔ケアの看護実践能力育成の教育モデルの構築と検証

研究課題名（英文）Development and validation of an educational model for the development of oral care practical nursing competence in bachelor's degrees

研究代表者

窪田 恵子 (Keiko, Kubota)

福岡看護大学・看護学部・教授

研究者番号：20309991

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：学士課程を有する看護大学において、合計45時間の多職種連携による口腔ケア教育が看護学生に対し実施された。その結果、その教育を受けた看護学生は、口腔ケアに関する意識、認識、態度が改善され、多職種連携の重要性に関する認識レベルが、歯学生よりも高くなり、この教育プログラムの有用性が示された。

看護学士課程を有する4年制看護大学の基礎・成人・老年・在宅看護分野の口腔ケア教育担当教員を対象に、自記式質問紙による全国横断調査を実施した。その結果、口腔ケア教育の講義・演習時間は全体的に不十分であり、COVID-19感染症の拡大により、患者への口腔ケア演習ができない等の問題点が明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

多職種連携による口腔ケア教育の有用性が示され、この教育プログラムが看護系大学に普及することにより、看護教育における口腔ケア教育が発展し、看護師の口腔ケア技術の向上、多職種連携が促進することにより、国民の口腔保健の向上、誤嚥性疾患の予防、QOL向上に寄与すると考えられた。

全国調査により、日本の看護学士課程における口腔ケア教育におけるいくつかの問題点が明らかになった。これらの課題に取り組むため、看護分野における口腔ケア教育を統合した学際的なコースを開発し、口腔ケア教育を共同で推進し、看護学生の口腔ケアに関する知識と技術を向上させることが重要であることが示唆された。

研究成果の概要（英文）：A total of 45 hours of oral care education by multi-professionals was provided to nursing students at a nursing college with a bachelor's programme. The results showed that those who had the education programme improved their awareness, perception and attitude towards oral care, and their level of awareness of the importance of multi-professional collaboration was higher than that of the dental students, indicating the usefulness of this educational programme.

A national cross-sectional survey using a self-administered questionnaire was conducted among academic staff in charge of oral care education in the fields of basic, adult, geriatric and home nursing at four-year nursing colleges with bachelor's programmes in nursing. The results revealed that overall lecture and exercise time for oral care education was inadequate and problems such as the inability to conduct oral care exercises with patients due to the spread of COVID-19 infections were identified.

研究分野：基礎看護学

キーワード：口腔ケア 口腔ケア教育 学士課程 看護学生 看護カリキュラム

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

2012年から周術期口腔機能管理が保険診療報酬として評価されたことから、医科と歯科の連携が強化され、術後の合併症を予防し入院期間の短縮や患者のQOL維持、向上につながった。しかし、歯科医師、歯科衛生士が連携して口腔管理を行った成果の研究はあるが、看護師が実施する口腔ケアや他職種と連携しての効果についての報告は少ない。病院施設等には、歯科医師、歯科衛生士が常勤していない施設が多く、入院患者の口腔ケアは、主に看護師に委ねられている。患者のQOL向上のためには、患者の健康段階や発達段階に応じて、急性期から回復期、さらに退院後の在宅での生活や要介護の状態においても、口腔機能をアセスメントして口腔ケアや摂食指導などが適切に行われ、歯周病予防と口腔嚥下機能の回復に向けた働きかけが必要である。今まで、看護師、看護学生、歯科衛生士学生および歯学部教職員を対象とした口腔ケアに関する意識調査についての報告がある^{1) - 5)}。看護師を対象にした実態調査⁶⁾では、ほとんどの看護師が口腔ケアの必要性を感じ、口腔ケアと全身疾患との関連についての知識があることが明らかになっている。しかし、口腔ケアの方法は歯磨きレベルから多様な研磨剤を利用した洗浄まで多彩であるため、看護師が口腔アセスメントやケア方法に悩みを持っている。歯学部教職員を対象とした報告では、教職員間で口腔ケアの解釈内容の違いが認められた。また、口腔ケアを1つの教科に統合して教育するとの提案がなされた⁷⁾。看護大学における口腔ケアの教育について調査されるものはあるが、学士課程教育における口腔ケア教育の位置づけや学士課程における口腔ケア技術能力を育成するための教育モデルの開発研究は報告がない。看護基礎教育に携わる教員の口腔ケアの認識の違いによっては、口腔ケアの教育内容は標準化されていないことが推察された。

2. 研究の目的

精選・構造化された教育を学部学生の口腔ケア教育に展開し、ケア能力の向上について検証すること、看護系大学の教育課程における口腔ケア教育の占める時間、担当領域、教育内容、教育方法を把握することを目的とした。

3. 研究の方法

1) -1 歯学生、歯科衛生士学生および看護学科の学生における、将来の口腔ケア実践への積極的な意欲に関連する要因に関する調査(入学時のベースライン研究)

対象者は、2017年4月時点で在籍する歯学部1年生(歯学生)88名、歯科衛生士学科1年生(歯科衛生士学生)64名、看護大学の1年生(看護学生)119名であった。2017年4月から5月にかけて、各学校で独自に質問紙を実施した。

質問票は、性別・年齢、口腔ケアに対する認識・態度(5項目)、口腔ケアに対する認識(4項目)、講義・実習での口腔ケア学習に対する態度(4項目)の4つのパートから構成された。看護師資格取得後の口腔ケアに対する積極的な意欲に関連する要因を明らかにするため、従属変数として「資格取得後に口腔ケアを実践したいと思いますか」という質問を使用した。この質問に対する回答は、肯定的な群(「とてもそう思う」「ややそう思う」と)と否定的な群(「あまりそう思わない」「まったくそう思わない」)に分けられた。独立変数として、性別、年齢、口腔ケアに対する意識・態度、口腔ケアに対する認知度を用いた。口腔ケアの認知に関する質問項目ごとに、学生が選択した選択肢の数を合計した。選択肢の合計数を中央値で割り、「認知度が高い」「認知度が低い」に分類した。

学生群間の口腔ケアに対する知識と態度の違いを探るために、カイ二乗検定を使用した。ロジスティック回帰分析を用いて、各学校で資格取得後に口腔ケアを実践する積極的な意欲に関連する因子を明らかにした。

1) -2 看護系学部学生の口腔ケアに関する認識・意識に及ぼす多職種連携教育の効果に関する調査(前向き研究)

1) -1 の調査対象と同じ看護学生は、研究期間中、3年次と4年次に口腔ケアに関する2つの必修科目を受講した。3年次の科目は「口腔健康科学論」であり、総時間数は22.5時間であった。歯学部の歯科医師と看護大学と連携している歯科衛生士学校の歯科衛生士が実施する講義から、口腔の基礎と臨床を学習した。また、言語聴覚士や摂食嚥下認定看護師の講義から、患者の口腔評価や摂食・嚥下訓練などを学習した。さらに、歯科衛生士と看護師の指導のもと、学生同士で口腔ケアや食事介助の実習を実施した。そのプログラムは、2018年9月15日から2019年1月16日まで実施された。4年次の講義は「口腔機能援助論」とし、総時間数は同じく22.5時間であった。教育内容は、口腔ケア用具(歯垢染色剤入り綿棒、歯ブラシ、デンタルフロス、歯間ブラシ、デンタルスポンジ、タフト歯ブラシ)と教材を受講者の自宅に郵送した。学生たちは、オンラインビデオで道具の使い方を確認した後、道具を使った口腔ケアを実践し、家庭での使用感などを報告した。その後、各看護分野の歯科医師と看護師が作成したオンラインビデオを視聴し、患者への口腔ケア実践における看護師の役割の協働と看護に関するケースレポートを

まとめた。

質問紙調査は、2017年4月に看護大学に入学した全学生(n=119)に実施された。質問票は、口腔ケアに対する認識や意識を評価するために、1)-1と同じものを利用した。2017年4月10日に第1回質問紙調査を実施した。第2回、第3回は、2020年7月15日の実習開始前と8月26日のコース終了後に、オンライン質問により回答してもらった。

第1回、第2回、第3回の質問票の回答をもとに、ベースライン時、プログラム受講前、受講後の口腔ケアに対する認識・態度を比較した。分布を比較するために、カイ二乗検定を用いた。

1)-3 口腔ケア教育前後の歯学生と看護学生の口腔ケアに関する態度、意識、認知の比較に関する調査(前向き研究、比較研究)

4年間の追跡調査と横断的研究が実施された。対象者は、1)-1の歯学生88名と看護学生119名であった。4年間の研究期間中、歯学生は1年次から4年次まで歯学基礎・臨床コースに参加したが、5年次から始まる臨床実習コースには参加していなかった。看護学生は、2018年9月から2019年1月にかけて1)-2の22.5時間の口腔健康科学論(3年生コース)、2020年8月に22.5時間の口腔機能援助論(4年生コース)を受講した。質問票は、1)-1の質問票をベースに多職種連携の認識に関する項目を加えた。

口腔ケアに関する態度、意識、認知のレベルについて、ベースライン時(1年生時)と口腔ケア教育終了時(4年生時)の差を、各学生群および歯学生・看護学生間で比較するためにカイ二乗検定を用いた。態度、意識、認知のレベルの比較には、1年生と4年生の間でWilcoxon符号順位検定を、歯学生と看護学生の間でMann-Whitney U検定を使用した。

2) 看護学士課程における教育における口腔ケアの現状と今後の展望に関する調査(断面調査)

2022年5月11日から7月10日にかけて、看護学士課程を有する4年制看護大学の基礎・成人・老年・在宅看護分野の口腔ケア教育担当教員を対象に、自記式質問紙による全国横断調査を実施した。質問票は、看護学生の口腔ケアに関する知識、態度、自信に対する多職種による口腔ケア教育の効果を評価するために使用された既存の質問票を利用した。さらに、質問項目は、口腔ケア教育としての実務経験年数、講義での口腔ケア教育、口腔ケア教育実習、口腔ケア教育人材に分けられ、それぞれ看護分野での口腔ケア講義、口腔ケア実習指導に何分費やしたかを評価した。

4. 研究成果

1)-1 歯学生、歯科衛生士学生および看護学科の学生における、将来の口腔ケア実践への積極的な意欲に関連する要因に関する調査(入学時のベースライン研究)

歯学生72名、歯科衛生士学校の学生62名、看護大学の学生115名、計249名の学生が参加した。回答率は歯学生が81.8%、歯科衛生士学生が96.9%、看護学生が96.6%であった。過半数(53.9%-70.8%)の学生が、口腔ケアを「なんとなく理解している」と回答した。看護学生の約4割が「口腔ケアをあまり理解していない」と回答した。口腔ケアの知識に対する自信には、群間で有意差が認められた($P<0.001$)。約7割が口腔ケア実習に興味があり、6割以上が看護師になってからの実習を希望していた。しかし、歯学生の26.4%、看護学生の39.2%は口腔ケアにあまり関心がなかった。また、看護学生の42.6%が、看護師になってからの口腔ケアの実践に前向きな気持ちを抱いていた。歯学生と歯科衛生士学生の大多数は、看護師になってから口腔ケアを実践することになる業務が「50%~74%」と回答したが、看護学生の大多数は「25%~49%」であった。看護学生の口腔ケアの実践に関する意識は、歯学生と歯科衛生士学生よりも否定的であった($P<0.01-0.001$)。

「口腔ケアを実践するためには、一般歯科に関する知識がもっと必要だ」と回答した学生はほとんどであった。しかし、一般医学、老年医学、看護学に関する知識の必要性を感じているのは、歯科衛生士学生と看護学生は50%未満であった。一般医学に関する知識の必要性については、群間で有意差が認められた($P<0.001$)。

半数以上の学生が、健康な人から病気や障害を持つ高齢者まで幅広い層に口腔ケアを提供するべきだと感じており、介護施設や在宅、小児病棟等でも口腔ケアを提供するべきだと考えていた。しかし、回復期リハビリテーション病棟(39.8%)、がん専門病院(32.9%)、ホスピス(32.9%)、急性期病院(26.1%)、産科病棟(21.3%)、精神科病棟(10.8%)では4割以下しか提供されるべきとは認識していなかった。

口腔ケアを行うべき対象として「要介護高齢者」「がん患者」、口腔ケアを行うべき場所として「介護施設」「がん病院」「急性期病院」「精神科病棟」について、群間で有意差が認められた($P<0.05-0.001$)。ほとんどの学生が、口腔ケアがう蝕や歯周病の予防に有効であることを知っていた。しかし、循環器疾患や誤嚥性肺炎などの一般疾患の予防に口腔ケアが有効であることを知っている人は約半数にとどまった。「一般疾患の予防」「循環器疾患の予防」「誤嚥性肺炎の予防」「介護予防」「食欲不振の改善」における口腔ケアの役割の理解には、群間で有意差が認められた($P<0.01-0.001$)。

7割以上の学生が「歯磨き」「口腔粘膜のぬぐい取り」「歯磨きのサポート」を行うための学習が必要だと講義・実習の両方で回答した。「唾液腺マッサージ」や「嚥下訓練」を行うための学習の必要性を感じているのは、27.7%~42.6%にとどまった。義歯洗浄の習得の必要性を感じて

いる看護学生は約4割(講義:34.8%、実習:41.7%)に留まった。「口腔軟組織のスワビング」「義歯の洗浄」「嚥下訓練」に関しては、教育の必要性の認識に群間で有意差が認められた。

「1~2時間」の口腔ケアに関する学習の必要性を感じている人が過半数(講義53.8%、実習42.2%)であった。歯学生の過半数(40.3%)は実習で「3時間以上」、看護学生の40.9%は講義と実習の両方で「3時間以上」必要だと回答した。講義と実習の両方における教育の必要性の認識には、群間で有意差が認められた。

資格取得後の口腔ケアの実践に対する積極的な意欲に関連する要因については、歯学生では、「低い年齢」「口腔ケアへの関心が高い」「口腔ケアに対する認識が高い」が、歯科医師になった後の口腔ケアの実践意欲の高さと有意に関連した。歯科衛生士学生では、「認知度の高さ」「口腔ケアへの関心の高さ」「口腔ケアへの認識の高さ」が、口腔ケアの実践意欲の高さと有意に関連し、看護学生では、「口腔ケアへの関心の高さ」が、口腔ケアの実践意欲の高さと有意に関連した。

本研究では、歯科医療学生と看護学生の口腔ケアに対する考え方や知識に関する弱点を早期に明らかにした。口腔ケア専門家は、学生のための効果的な口腔ケアカリキュラムを開発し、看護師は看護学生のモチベーションを高めるために効果的な看護口腔ケアカリキュラムを開発するのを支援する必要があると考えられた。

1) -2 看護系学部学生の口腔ケアに関する認識・意識に及ぼす多職種連携教育の効果に関する調査(前向き研究)

看護学生102名(85.7%)が、3つの質問紙全てを回答した。ほぼ全員(98.0%)が講義受講後に口腔ケアに興味を示した。96.1%以上が資格取得後の口腔ケアの実践や他職種との協働に前向きな姿勢を示した。口腔ケアに関心を示す人の割合は、ベースラインと口腔ケアコース受講前とでは、有意な増加は見られなかったが、コース終了後は有意に増加した($p<0.01$)。

コース終了後、ほぼすべての看護学生が、う蝕、歯周病、誤嚥性肺炎の予防に関する口腔ケアの有効性を認識した。う蝕と歯周病を除く疾患の予防に口腔ケアが有効であることを認識している看護学生の割合は、ベースラインの31.4%-44.1%から受講後は85.3%-98.0%と有意に増加した。96.1%以上の学生が、「患者や高齢者に対して口腔ケアを行うべきである」と認識しており、その割合は講義終了後に有意に増加した($p<0.001$)。90.2%以上が、「介護施設」「病棟」「ホスピス」で口腔ケアを行うべきと認識していた。その割合は、ベースライン時の6.9%~79.4%から、講義終了後には90.2%~97.1%と有意に増加した。

口腔ケアに必要な知識に関しては、「一般歯科」「看護」については91.2%以上が、「老年医学」「一般内科」については約4分の3が必要性を感じていた。また、「看護学」「老年医学」「一般医学」の知識の必要性を感じている人の割合は、ベースライン時の半数以下から講義終了後には72.5%以上と有意に増加した。「学ぶ必要があると思う」と回答した人の割合は、講義終了後の講義・実習ともに、全ての項目で65.7%以上であった。

「口腔軟組織の清掃」「歯間清掃の使用」以外の手技について、学ぶ必要性を感じている者の割合は、ベースライン時の21.6%-76.5%から講義終了後は65.7%-95.1%と、講義・実習ともに有意に上昇した($p<0.05$)。「歯間清掃用具の使い方を学ぶ必要がある」との回答割合は、口腔ケアコース受講前は有意に減少した。しかし、講義終了後は、講義・実習ともに有意に増加した。

以上より、多職種連携教育は、看護学生の口腔ケアに対する意識・認識を改善させる可能性が示唆され、今後連携した口腔ケアを推進する可能性がある。

1) -3 口腔ケア教育前後の歯学生と看護学生の口腔ケアに関する態度、意識、認知の比較に関する調査(前向き研究、比較研究)

歯学生48名(54.5%)、看護学生103名(86.6%)が、1年次と4年次の両方で質問紙に回答した。ベースライン時の平均年齢は、歯学生が 19.9 ± 3.0 歳、看護学生が 18.2 ± 1.2 歳であった。コース受講後、歯学生は全員、看護学生はほぼ全員(98.0%)が口腔ケアに興味を持ち、資格取得後も口腔ケアを実践する意思を示した。また、歯学生の約60%が、看護学生の24.3%が、資格取得後に口腔ケアを実践する割合が50%以上であると回答した。

口腔ケアへの関心は、歯学部の1年生と4年生、看護大学の1年生と4年生で有意差があり、資格取得後に口腔ケアの実践することを希望する割合も歯学部の1年生と4年生、歯学部と看護大学で有意差が認められた。

歯学生の8割以上が、「一般歯科」「一般内科」「看護の知識」が必要と認識しており、さらに歯学生の「一般内科」の知識の必要性の意識は、講義受講後に有意に向上した($P<0.01$)。歯学部4年生と看護大学の学生の8割以上が、高齢者や患者に対して口腔ケアを行うべきであると認識していた。しかし、この認識は、歯学生では、講義受講後に有意に改善されなかった。

歯学生が口腔ケアを提供すべきと認識している項目は「長期療養施設」のみであったのに対し、看護大学の学生は講義受講後、80%以上の学生がすべての項目で口腔ケアを提供すべきと認識していた。「ホスピス」を除くすべての項目で口腔ケアを提供すべきと考える看護学生4年生の割合は、歯学生4年生よりも有意に高かった($P<0.05$)。歯学生、看護学生の90%以上が、う蝕、歯周病、誤嚥性肺炎の予防に対する口腔ケアの有効性を認識しており、誤嚥性肺炎予防、介護予防(フレイル予防)、食欲不振に対する口腔ケアの有効性の認識は、看護学生、歯学生ともに、講義受講後に有意に向上した($P<0.05$)。

歯学生と看護学生の口腔医療に関する意識・認識・態度のレベルの比較では、口腔ケアに対する関心・意識レベルは、歯学生4年生と看護学生4年生ともに歯学生1年生と看護学生1年生よりも有意に高く($P<0.01$)、口腔ケア手技を学ぶ必要性の認識レベルは、看護学生のみ有意に向上した($P<0.001$)。口腔ケアに対する興味や意識、医師や看護師、言語聴覚士などの医療従事者との連携の重要性の認識は、歯学生4年生よりも看護学生4年生で高かった。

以上より、口腔ケアに対する意識の高さや教育後の口腔ケア実践における医療従事者との連携の重要性についての認識度は、多職種連携教育の実施後では、歯学生よりも看護学生が高く、多職種連携教育による看護師への口腔ケア教育の有効性が示唆された。

2) 看護学士課程における教育における口腔ケアの現状と今後の展望に関する調査(断面調査)

質問紙用紙のうち、26.4%($n=311$)が郵送回収期限内に返送された。回答者のうち、口腔ケア教育担当者として質問紙に回答した人は63.0%($n=196$)であったが、37.0%は自分の分野に口腔ケア教育を担当する教員がいないため質問紙に回答していないことがわかった。また、看護教員としての実務経験は10年以上(68.2%)がほとんどであったが、口腔ケア教育担当教員としての実務経験は5年未満(38.5%)であり、5~9年の経験者は31.8%であった。

口腔ケアに関する教育では、「化学療法」「放射線療法」「周術期(集中治療室[ICU]を含む)」「ホスピス病棟」での教育実施率は2割弱であり、「介護施設」「在宅」「回復期リハビリテーション」「内科病棟」での教育実施率は3~4割であった。成人看護学分野では「化学療法」「放射線治療」「周術期病棟」での口腔ケアについて教育しているのは6割弱であったが、老年看護学分野では78.0%が介護施設での口腔ケア、在宅看護学分野では90.0%が在宅での口腔ケアを教育していた。

携帯用吸引器、個人用保護具、歯間ブラシの使用の教育については、分野間で有意差が認められた。理想的・実際の口腔ケア講義の時間は 65.5 ± 54.7 分、 50.4 ± 46.9 分であり、理想的・実際の口腔ケア実習の時間は 72.3 ± 62.2 分、 46.2 ± 47.1 分であり、その差は、それぞれ 15.1 ± 53.9 分、 26.1 ± 53.2 分であった。理想的な時間と実際の時間の間には、有意な差が認められた($P<0.001$)。講義では、成人看護学分野では 33.3 ± 34.6 分が最も短く、老年看護学分野では 62.0 ± 52.6 分、実習では成人看護学分野では 19.6 ± 32.9 分が最も短く、基礎看護学分野では 55.7 ± 49.3 分が最も長い時間であった。また、成人看護分野では講義で、すべての看護分野では実習で、理想的な時間が実際の時間より有意に長かった($P<0.05$)。

回答者のうち126人が口腔ケア教育における問題点を記述し、データから192の項目が抽出された。参加者の9.5%が「口腔ケア教育に問題なし」と回答したが、「相互・患者への口腔ケア演習・演習ができない(40.5%)」「時間がない(34.1%)」「口腔ケアトレーニング製品の不足(9.5%)」「シミュレーター不足(4.0%)を含む」「他の分野や医療従事者との連携不足(16.7%)」「人材不足(8.7%)」「現場での口腔ケア教育ニーズが理解されていない(4.0%)」などの問題点も挙げられた。「COVID-19のパンデミックにより、相互実習、患者実習での口腔ケア教育が不可能である」との回答割合は、分野間で有意差が認められた($P<0.05$)。

本研究により、日本の看護学士課程における口腔ケア教育におけるいくつかの問題点が明らかになった。これらの課題に取り組むため、本研究では、看護分野における口腔ケア教育を統合した学際的なコースを開発し、口腔ケア教育を共同で推進し、看護学生の口腔ケアに関する知識と技術を向上させることが重要であることが示唆された。

<参考文献>

- 1) Ryuichi Kaneko, Akira Ishikawa, Futoshi Ishii, Tsukasa Sasai, Miho Iwasawa, Fusami Mita, Rie Moriizumi. Population Projection 看護学生 for Japan: 2006-2055 Outline of Results, Metho 歯学生, and Assumptio 看護学生. the Japanese Journal of Population 6(1), 76-114, 2008.
- 2) Yoneyama T, Yoshida M, Matsui T, Sasaki H. Oral care and pneumonia. Oral Care Working Group. Lancet 354, 515, 1999.
- 3) Yusuf H. Toothbrushing may reduce ventilator-associated pneumonia. Evid Based Dent 14, 89-90, 2013.
- 4) 石井 陽子, 福田 佳世, 中川 株子, 鈴木 ゆみ, 北山 香代子, 飯田 夕子, 吉田 祐子. 口腔ケアに関する看護職者の意識調査. 日本看護学会論文集: 成人看護 1138 号, 401-403, 2008.
- 5) 加山 美味, 大村 真未, 小林 千世. 看護学生の口腔ケアに関する研究 口腔ケアの実態と興味、知識、認識の関連について. 日本看護学会論文集: 看護教育 39 号, 244-246, 2009
- 6) 横塚あゆ子, 隅田好美, 日山邦枝, 他: 病棟看護師の口腔ケアに対する認識 病棟の特性および臨床経験年数別の比較, 老年歯科医学, 27(2), 87-96, 2012.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 6件／うち国際共著 0件／うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Haresaku Satoru, Aoki Hisae, Kubota Keiko, Nakashima Fuyuko, Uchida Souhei, Jinnouchi Akio, Naito Toru	4. 巻 72
2. 論文標題 Nurses' Perceptions of Oral Health Care Provision After the COVID-19 Lockdown	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 International Dental Journal	6. 最初と最後の頁 242 ~ 248
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.identj.2021.06.004	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 青木 久恵, 晴佐久 悟, 三好 麻紀, 門司 真由美, 町島 希美絵, 中島 富有子, 内藤 徹, 窪田 恵子	4. 巻 23
2. 論文標題 多職種における口腔ケアに関する役割認識の実態調査	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 バイオメディカル・ファジィ・システム学会誌	6. 最初と最後の頁 61 ~ 68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Haresaku Satoru, Kubota Keiko, Yoshida Rie, Aoki Hisae, Nakashima Fuyuko, Iino Hidechika, Uchida Souhei, Miyazono Mami, Naito Toru	4. 巻 ahead of print
2. 論文標題 Effect of multi professional education on the perceptions and awareness of oral health care among undergraduate nursing students in a nursing school	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Journal of Dental Education	6. 最初と最後の頁 ahead of print
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1002/jdd.12558	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Haresaku S., Monji M., Miyoshi M., Kubota K., Kuroki M., Aoki H., Yoshida R., Machishima K., Makino M., Naito T.	4. 巻 22
2. 論文標題 Factors associated with a positive willingness to practise oral health care in the future amongst oral healthcare and nursing students	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 European Journal of Dental Education	6. 最初と最後の頁 e634 ~ e643
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/eje.12369	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 吉田理恵, 窪田恵子, 晴佐久悟, 青木久恵, 門司真由美, 三好麻紀, 梶原江美, 内藤 徹	4. 巻 68
2. 論文標題 看護分野における口腔ケア研究の動向と歯科口腔保健・医療動向との関連性の検討	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 口腔衛生学会雑誌	6. 最初と最後の頁 28-35
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.5834/jdh.68.1_28	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Haresaku Satoru, Kubota Keiko, Miyoshi Maki, Obuse Mika, Aoki Hisae, Nakashima Fuyuko, Muramatsu Masumi, Maeda Hitomi, Uchida Souhei, Miyazono Mami, Iino Hidechika, Naito Toru	4. 巻 in press
2. 論文標題 A Survey of Oral Assessment and Healthcare Education at Nursing Schools in Japan	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 International Dental Journal	6. 最初と最後の頁 in press
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1016/j.identj.2022.09.006	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Haresaku Satoru, Miyoshi Maki, Kubota Keiko, Obuse Mika, Aoki Hisae, Nakashima Fuyuko, Muramatsu Masumi, Maeda Hitomi, Uchida Souhei, Miyazono Mami, Iino Hidechika, Naito Toru	4. 巻 20
2. 論文標題 Current status and future prospects for oral care education in Bachelor of Nursing curriculums: A Japanese cross sectional study	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Japan Journal of Nursing Science	6. 最初と最後の頁 in press
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/jjns.12521	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計14件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 窪田恵子, 晴佐久悟, 飯野英親, 青木久恵, 中島富有子, 内田荘平, 宮園真美, 秋永和之
2. 発表標題 アフターコロナにおける看護基礎教育課程の口腔ケア教育・研究を考える
3. 学会等名 第41回日本看護科学学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 窪田恵子、晴佐久悟、飯野英親、青木久恵、中島富有子、内田荘平、宮園真美、秋永和之
2. 発表標題 看護基礎教育課程におけるアドバンスド口腔ケア教育・研究の推進について考える
3. 学会等名 第40回日本看護科学学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 青木久恵、晴佐久悟、三好麻紀、門司真由美、町島希美江、児玉百代、中島奈々、国崎裕子、中島富有子、窪田恵子、内藤 徹
2. 発表標題 多職種の口腔ケアにおける役割認識に関する実態調査
3. 学会等名 第46回福岡歯科大学学会総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 窪田恵子、晴佐久悟、飯野英親、青木久恵、中島富有子、内田荘平、宮園真美、岩本利恵、梶原江美、町島希美絵、門司真由美、三好麻紀、吉田利恵、秋永和之、原やよい、吉川千鶴子、日高艶子
2. 発表標題 口腔関連の看護研究の新時代について考える
3. 学会等名 第39回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Haresaku Satoru, Monji Mayumi, Miyoshi Maki, Kubota Keiko, Aoki Hisae, Kajiwara Emi, Yoshida Rie, Nakashima Fuyuko, Uchida Souhei, Naito Toru
2. 発表標題 Comparison of knowledge and attitudes of oral healthcare among nursing and oral healthcare students
3. 学会等名 第67回日本口腔衛生学会・総会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 窪田恵子、晴佐久 悟、飯野英親、岩本利恵、青木久恵、中島富有子、内田荘平、宮園真美、梶原江美、町島希美絵、門司真由美、三好麻紀、吉田理恵、秋永和之、澤田喜代子、吉川千鶴子、日高艶子
2. 発表標題 口腔アセスメント・口腔ケア技術教育の課題解決と再構築
3. 学会等名 第38回日本看護科学学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 吉田理恵，三好麻紀，門司真由美，窪田恵子
2. 発表標題 口腔保健医療の動向からみた看護師が関わる口腔ケア研究の推移
3. 学会等名 一般社団法人日本看護研究学会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 梶原江美，飯野英親
2. 発表標題 過去3年に出版された基礎看護技術のテキストにおける口腔ケアに関する頁記載率と記載内容
3. 学会等名 第44回福岡歯科大学学会総会・学術大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 三好麻紀，晴佐久悟，窪田恵子，飯野英親，門司真由美，青木久恵，吉田理恵，町島希美絵，梶原江美，中島富有子，内田荘平，内藤徹
2. 発表標題 看護大学教員の口腔ケアに対する意識について
3. 学会等名 第44回福岡歯科大学学会総会・学術大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 門司真由美, 三好麻紀, 窪田恵子, 吉田理恵, 町島希美絵, 青木久恵, 中島富有子, 晴佐久悟, 内藤 徹
2. 発表標題 入学直後の看護学生の口腔ケアに関する知識・態度の実態調査
3. 学会等名 第37回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 青木久恵, 門司真由美, 三好麻紀, 窪田恵子, 吉田理恵, 町島希美絵, 中島富有子, 晴佐久悟, 内藤徹
2. 発表標題 入学直後の看護大学生における口腔ケアの効果と実施すべき頻度に関する理解度の実態
3. 学会等名 第37回日本看護科学学会学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 飯野英親, 晴佐久悟, 窪田恵子, 門司真由美, 三好麻紀, 青木久恵, 吉田理恵, 町島希美絵, 梶原江美, 中島富有子, 内田荘平, 内藤 徹
2. 発表標題 看護大学教職員の口腔ケア教育の実態と希望に関する調査
3. 学会等名 第44回福岡歯科大学学会総会・学術大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 晴佐久悟, 門司真由美, 三好麻紀, 窪田恵子, 黒木まどか, 牧野路子, 青木久恵, 吉田理恵, 町島希美絵, 飯野英親, 梶原江美, 中島富有子, 内田荘平, 内藤 徹
2. 発表標題 入学時の看護学生、歯学生、および歯科衛生士学生の口腔ケアに対する意識・知識・態度の比較
3. 学会等名 第44回福岡歯科大学学会総会・学術大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 窪田恵子、 晴佐久悟、 青木久恵、 宮園真美、 中島富有子、 秋永和之、 内田荘平
2. 発表標題 看護学士課程における口腔ケア教育・研究の深化・発展を考える
3. 学会等名 第42回日本看護科学学会交流会
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 水田祥代, 窪田恵子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 大道学館出版部	5. 総ページ数 306
3. 書名 看護で教える最新の口腔ケア - 授業・演習・臨床・在宅現場でも、すぐに使える! -	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	晴佐久 悟 (Haresaku Satoru) (10330961)	福岡看護大学・看護学部・教授 (37129)	
研究分担者	飯野 英親 (Iino Hidechika) (20284276)	福岡看護大学・看護学部・教授 (37129)	
研究分担者	青木 久恵 (Aoki Hisae) (70526996)	福岡看護大学・看護学部・教授 (37129)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	中島 富有子 (Nakashima Fuyuko) (80592980)	福岡看護大学・看護学部・教授 (37129)	
研究分担者	梶原 江美 (Kajiwara Emi) (00389488)	西南女学院大学・保健福祉学部・教授 (37119)	
研究分担者	門司 真由美 (Monji Mayumi) (80527002)	福岡看護大学・看護学部・講師 (37129)	
研究分担者	町島 希美絵 (Machishima Kimie) (90767443)	福岡看護大学・看護学部・准教授 (37129)	
研究分担者	三好 麻紀 (Miyoshi Maki) (00595259)	福岡看護大学・看護学部・准教授 (37129)	
研究分担者	吉田 理恵 (Yoshida Rie) (40807038)	熊本保健科学大学・保健科学部・講師 (37409)	
研究分担者	中西 真美子 (Nakanishi Mamiko) (50766821)	熊本保健科学大学・看護学部・講師 (37129)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------